

光源寺ひかり子ども会

楠 直也

毎週土曜日午後七時、光源寺境内の梵鐘を子ども達が順番に突く、これがひかり子ども会のプログラムの始まりである。

現在の参加者は一才から高校生まで、参加人数は平均で約二十五人。本堂に正座して読経。次に住職のお話を聞く。その後は本堂で思いっきり遊び、紙芝居を見て、お土産をもらって解散。このプログラムを何十年と変えることなく続けている。

年間行事としては、一月の餅焼会。二月の節分。四月の花祭り。七月のお泊り会。そして八月の盆踊り。十二月の除夜の鐘の煤払い。と年間を通して季節に沿った行事を行っている。

参加は自由。参加費はなし。宗派とか地区とかそんなものも一切関係ありません。来たい時にお寺に集い、そして来られない時はお休みとする。「思い出したら、お寺にこんね。子ども会はいつもありよるよ」というスタンスでの活動。だからメンバーは固定されておらず、新しい参加者も自然と入り込める。お寺の子ども会は、無条件で迎えてくれる場所。そして、仏さまにいだかれて、のびのびとした時間を過ごす場所です。このひかり子ども会は平成二十一年で開校百周年を迎えることとなる。

初代のひかり子ども会の創立者は光源寺代十五世越中間信師。明治三十八年、ロシアとの日露戦争が終わり、人心が落ちつき始めた頃、光源寺にお参りしていた子ども達のために「日曜学校」を始められたそうである。

明治四十二年六月六日、子ども達の増加に伴い会場が手狭になり、場所が座敷より光源寺本堂へ移る。そしてこれを機に「光蘭日曜学校」と名付けられ、本格的に子ども会活動が開始されました。開校式の記念写真が今でも光源寺に残っている。その写真を見ると総勢百五十人。子ども達は普段着とは違う袴姿で写っている。しかしこの日曜学校も大正五年には事情により閉校してしまっている。

平成十八年にはナガサキ・ピースミュージアムで「子ども会一〇〇年展」を開催しました。子どもさん達が展覧会に来て、「お父さんの子どもの頃の写真があった」と喜んでおられました。

今では、親子三代、子ども会に遊びに来て下さる家庭も多いです。お爺ちゃんもお母さんも子ども会の卒業生です。ひかり子ども会では三十年前も今も同じ法話をし、同じゲームをしています。今の子ども達も昔の子ども達と同じ話・ゲームで笑い、楽しみ、感動して時を過ごします。

子ども達自身は昔も今も全然変わってないんだなと実感できる瞬間です。変わっているのは子どもを取り巻く環境です。

現代に不足しているもの、それは子ども達に優しさ・慈しみ・思いやりの心を育む環境。そして、子ども達が子ども同士で互いに育てあう環境だと思います。この環境を提供できる場の一つがお寺の子ども会活動ではないでしょうか。今後、このような環境が一つでも増えることを期待しています。

(ひかり子ども会監事)



ひかり子ども会 夏の講習会

この日曜学校を復活させたのが、子ども会の二代目指導者越中哲也先生である。戦後、先生は娯楽に飢え食料に飢えていた子ども達に楽しみを！との思いで再開した。当時は越中先生の「鞍馬天狗」が大人気だったそうです。

昭和二十四年には当時のブームにのり、名称を福田稔先生の御指導で「ひかり子ども会」と変更。また毎日曜日に行われていた子ども会を「日曜日ほゆつくり寝たい、遊びたい」という子ども達の意見を取り入れて、土曜日の夜の開催に変更しました。日曜学校は日曜日に行うのが当たり前と思われていた時代に子どもたちの意見を取り入れて、集まりやすい土曜の夜にしたのが画期的なアイデアでした。この後、何度か曜日と時間の変更を試みましたが、やはり土曜の午後七時が一番集まりやすかったみたいです。と越中先生は言われる。

昭和三十七年、三代目の指導者として、楠達也光源寺十六世へとバトンタッチされた。この頃は光源寺の他にも深崇寺・観善寺・発心寺・西明寺・光永寺・妙行寺・大音寺・浄安寺・聖徳寺・悟真寺・皓台寺・永昌寺・浄真寺・光泉寺・勝廓寺などでも日曜学校が行われており、合同の花祭り大会も開催されていた。しかしテレビの登場、進学教育、そして少子化の影響で次第に子ども会は閉校していき、残念ながら現在では定期的に子ども会活動をしているのはほんの四ヶ寺だけになってしまった。

光源寺のひかり子ども会もこの影響をマトモに受けました。最盛期には百五十人もいた子ども達も年ごとに減少し、ついには参加者一名という日も何度かありました。「たった一人でも、子どもが来てくれるのなら続けよう」という強い信念で、達也住職のもとに土曜日の夜七時には梵鐘を突いてお勤めを続けました。

最盛期と低迷期の繰り返しを続けていくうちに、いつしか子ども会も百年の歴史を持つようになり、卒業生も五千名を超すまでになりました。

風信

○平成十八年一月より十二月まで、恒例により毎月発行してきた「ながさきの空」を中心に協力委員の各位よりお寄せ戴いた論考を集め、十八銀行により「特集 ながさきの空十八集」を一月末、発行できました。御希望の方は事務局でお受け取り下さい。(無料・但し送料必要な場合は各自負担ください)

○長崎県九條会代表委員来訪あり「平和は長崎より」をモットーに、其の趣旨を説明伝達する会合を展開したので本会にも御協力を御願い致しますとの事、勿論・賛同の意を表しました。

○NHK文化センター長崎教室の八谷所長来訪あり。国指定史跡地を中心に研修会をバス使用で開催したので、協力をお願いしたいとの事であった。月一回というので御引き受けすることにしました。

四月は大村市圓融寺庭園(国史跡)を中心に、五月は神代と島原葉園(国史跡)。六月は福岡まで足を伸ばして観音寺の梵鐘(国宝)、天満宮(重文)を中心にと考えている。参加希望の方はNHK文化センターまで。(電話〇九五―八一―七〇三二)

○本会の月曜講座、二月は休みでしたが、三月より五日(月)午前十時半より一七八回。十二日は一七九回と順次開催する事になりましたので御自由にお出かけ下さい。(会費は無料ですが資料代は二〇〇円です)

○皆さんの御要望もあつて、本会主催で先日開催した食文化講座―中国料理、講師には長崎市国際課の林金艶女史を迎えたこともあつて好評満席、次回も是非ということであった。

○平戸松浦資料館に松浦家の古文書「大曲家記・正・統」を読みたいのですがと申し込んだら、同館の久家孝史学芸員わざわざ同館で古文を読み下された「大曲記」を送付していただいた。感謝申し上げます。

○東京ミツカンKKより三沢啓志部長来訪「ボンズと長崎」の事を解説して下さいとの依頼を受く、回答する事にした。

